

全国青年対策交流会議

青年部副部長 篠崎 謙悟

2月24日から26日まで豊橋シーパレスに於いて開催された第23回全国青年対策交流会議に参加しました。

新型コロナウイルスの影響により前回の福島県から4年ぶりの開催となりました。

1日目には鈴木誠一中央執行委員長のオルグとして『全港湾の歴史』をお話いただき、2日目には真島全国港湾中央執行委員長による『原子力発電所建設阻止のたたかいから学ぶ』と題した講演を聞き、その後は班に分かれて分散会を行いました。分散会ではオルグと講演を聞いた上で予め設定されていたテーマに沿ってディスカッションを行いました。

私が参加した班では議題1の〈福島連帯キャラバンについて〉では行程途中での参加の難しさや、全日程に参加するのは難しいなどの意見がでました。

ディスカッションの中で東北地方青年部の方々から東日本大震災の原発事故や、東海村臨界事故の実体験を聞いて4年前の青対で福島の原発や人が住めなくなった地域などをフィールドワークで巡った時のことを思い返して、福島連帯キャラバンへ参加できていない現状を改めて考え直さなければならないと思いました。

また、福島県に行くのが難しいのであれば自分たちの地元で反原発の運動に参加したりキャラバンが開催している日程で原発学習会を行うなど、現地に足を運ばなくてもできる運動に取り組むのも一つの方法であると感じました。

議題2の〈今後の青年部の活動をどう展開していくか〉については、コロナ禍の間に青年部の代替わりがあり所属はしているが青年部の活動を全く知らない世代が多くいる。そういった世代や今後新しく入ってくる仲間にまずは青年部とはどんなところなのかを知ってもらうために歓迎会や飲み会などで良い関係性を作るところから始めて、沖縄平和行進や全国青対と一緒に参加してもらう。そして新しい世代がまた次の新しい世代を連れて行くという連鎖が起きるのが理想的であると意見がまとまりました。

阪神支部青年部もコロナ禍での代替わりがあり活動内容を知らない世代が9割を占めています。私自身も年齢的に青年部で活動できる最後の年となりました。次の世代に引き継いでいく為にも今回の意見を参考にして取り組みます。

最後に中央本部からのお題として〈魅力ある職場とは〉という議題でのディスカッションでは残業に頼らず8時間働けば普通に暮らせる賃金を貰える職場、現状の人力作業で常に危険と隣り合わせの労働環境ではなくテクノロジーの力も借りて体力的にも楽な環境で働ける職場、などが意見として上がりました。

他地方の方の労働環境を聞いて地方と都市部では同じ港湾でも働き方に大きな違いがあり驚きを感じました。自分の職場だけではなく仲間と労働環境を共有することは今後の活動を行う上でも非常に大切な事であり地元に戻っても取り組みたいと思います。

今回で2度目の参加となりましたが、全国青対は学びの場としてはもちろんのこと全国の仲間と交流ができるのが一番の魅力だと思います。

また、真島委員長、鈴木委員長、並びに中央執行委員の皆様からの貴重なお話を聞くことができ非常に充実した3日間でした。

主催をさせていただいた沖縄地方青年部の皆様もお疲れ様でした。ありがとうございました。

次回は関西での開催ですので今回得たことを持ち帰り、議論して参加者の皆様に楽しく交流していただき、時に真剣に学んでいただけるようにしっかりと準備に取り組めます。